

令和2年度 第3回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会議名	令和2年度 第3回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会		
日時	令和2年9月30日(水) 午後1時30分～午後3時50分		
場所	橋本市民会館2階 第3会議室A・B		
出席者	委員 (敬称略)	堀内 秀雄 田村 亜美 藤田 佐紀 上田 ひと美 戸島 浩子	乾 幸八 山本 光子 森川 嘉久 大山 善久 東 美樹
			平家 利也 遠藤 和美 浅野 匡洋 岸田 昌章 藪 祐梨子 <b>【出席委員：15名】</b>
欠席者	委員 (敬称略)	松端 克文 小林 俊治	前田 陽一郎 森田 知世子 <b>【欠席委員：4名】</b>
事務局		総合政策部長 上田 力也 政策企画課長 中岡 勝則 政策企画課長補佐 前川 朋久 地域振興係主任 平井 新也 地域振興係副主査 上原 慎太郎	
次第	1. 開会 2. 報告 2019年度はぐくむ委員会のあしあと ・小グループからの報告 ・事務局からの報告 3. 議題 ・本年度の進め方 ・条例関連制度等の検証シート ・次回開催日程等 4. 閉会		
資料	資料1 小グループからの報告 資料2 事務局からの報告 資料3 本年度の進め方(案)		

## 1.開会

市長より開会のあいさつ。

委員 19 名中 15 名出席により、委員会が成立していることを報告。傍聴者なし。

《市長あいさつ》

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により市のイベントの多くが中止となっている。
- ・高齢化率は 33 パーセントを超えてきており、今後区自治会制度の見直しも含めて高齢化のまちづくりを考えていく必要性を感じている。
- ・一番大変なのが道路橋梁を含めた公共施設の老朽化であり、令和 10 年度までで 130 億円程度の統合・改修費用がかかる見通しとなっている。
- ・今後人口が減っていく中で問題も多々あるが、市民の皆さんの意見を聞きながら、理解を得ながら市政運営を行う。
- ・橋本市の未来への発展につながるようにご協力をお願いしたい。

\*\*\*\*\*

## 2. 報告

はぐくむ委員会のあしあと

資料 1 について各班代表、事務局から報告があった。

【A班】情報共有

- ・すこやか橋本まなびの日にブース出展し、アンケート、缶バッジ作り、周知活動を行った。アンケートでは『聞いたことがある』、『内容まで知っている』で 30 パーセントおり、条例施行 1 年目にしては意外と多いなと感じた。委員の強みや個性を持ち寄る場としてもまなびの日参加はよかったと感じた。
- ・市長と橋本市の未来を語る女性の会では 160 名の女性の参加者がおり、はぐくむ条例のパンフレットを使って説明を行った。参加者は妙齢の方が多く子育て世代の方にもっと参加してもらいたいと感じたが、会はすごく盛り上がった。
- ・条例を知ってもらうことも大事だが、なぜ今橋本市に自治基本条例が必要であるかを知ってもらうことが考える機会になるのでそこをいかにうまく発信できるかを考える。

### 【B班】協働のまちづくり

- ・すこやか橋本まなびの日のブース出展が主な活動となった。
- ・情報共有からの協働のまちづくりであるから、協働のまちづくり単独で進め方や検証方法を考えるのは困難であるとの意見が多くあった。
- ・何をどのようにして進めていくのか、何を検証するのか、何をしたら良いのかというのが具体的な取り組みに進まなかった。
- ・職員アンケートや聞き取り調査をもとにいろいろと調べ、具体的な取り組みから糸口をつかみたい。

### 【C班】市民参画

- ・はぐくむ条例が市職員に深く浸透していないということを耳にしたので、はぐくむ委員と市職員の交流イベントを行いたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催することができなかった。
- ・はぐくむ委員会がどこに向かっていったらいいのかというのが明確ではなく、事務局に頼りすぎていると感じるので、委員の中で目標を設定し、それに向けた段階も作っていくという意見が出た。
- ・検証項目を明確にしたうえで、市の事業一つ一つに市民がどれくらい参画できているかというのをもっと細かく検証したいという意見もでた。
- ・市民の人たちに対して、何がまちづくりなのかということを明確にできていない。小さなところからまちづくりって始まるのだということを意識してもらうためにチェックリストみたいなものを市民の人たちに配布して、「もうすでに皆さん、まちづくりに参加しているのですよ」、「ほかにできそうなところはどこですか」と考えるツールになればと思い提案しています。

### 【事務局】

- ・はぐくむ条例の施行に伴い、政策企画課だけでなく各担当課で協働や市民参画を意識した取り組みが増えつつある。
- ・協働に特化した全職員向けの研修を実施することにより、市民協働や市民参画の意識付けをすることができました。
- ・ただ、現状として、はぐくむ条例が市職員に広く浸透していない。市職員がはぐくむ条例を理解するための取り組みの強化が必要であり、強化したうえで、各担当の取り組みにどこまで落とし込めるかが課題。
- ・単にはぐくむ条例の認知度を上げるだけでなく、まちづくりに関わるプレイヤーを増やしていくために、一律ではなく、対象それぞれに対して、効果的な情報発信、巻き込み方が必要。子供のころからはぐくむ条例や協働のまちづくりに対する意識付けのための取り組みが必要。

- ・ 普段意見を聞きにくい、子育て世代の意見を聞けたことは大きな成果。

#### ○発表後、委員意見

- ・ はぐくむ条例単体で推し進めるのではなく、例えばSDGsなどに組み込む、もしくは一緒に進めるなどして一貫性のある広報・周知の仕方が必要
- ・ 行政と協働して民生委員のように地域密着の生の情報を得る仕組みがほしい。また、この情報が社会とどうリンクするかということを発信できれば、もっと生きた教育ができる。
- ・ 協働の窓口になることの多い課の職員ですら『協働』という言葉を知っていても意味を知らないため、事務局に協働の周知を期待している。
- ・ はぐくむ委員会委員として市の広報に掲載していただいたが反響はあったか。

#### 【委員長より】

- ・ 社会教育の全国大会で橋本市の社会教育委員がはぐくむ委員会の記事が市の広報に載ったことを発表した。全国の人からの評価は高かった。今回、広報に対する反応はなかったようだが、広報は全市民に届く公的な情報提供サービスであるから、利用しない手はない。
- ・ 第2次橋本市長期総合計画は基本的によくできているので、その中にはぐくむ委員会で使える資料があると思う。

\*\*\*\*\*

### 3. 議事

#### (1) 本年度の進め方（資料3）

事務局より令和2年度の進め方について説明。

#### ○決定事項

- ・ はぐくむ委員会は9，11，1，3月の計4回開催
- ・ 3月のはぐくむ委員会は市長へ提案書を提出する
- ・ 10，12月は提案書策定チーム活動を行う

#### ○委員意見

- ・ 各課で行う検証内容について、はぐくむ委員もみていった方がよいと思う。はぐくむ条例はどの業務にもかかわっていることから、各課の現状を把握しないと、はぐくむ条例の検証はできないのではないか。

【委員長より】

- ・提案書提出後市長との懇談会を開催し、委員と市長とが意見交換をする場を設けてはどうか。
- ・この会は長期総合計画の進行管理評価をするためのものではないが、長期総合計画の内容で市民と一緒に実施しなければ実現しないような項目をはぐくむ委員会で探すことはできる。

(2) 条例関連制度等の検証シート

事務局より検証シート内容について説明の後、グループワークを実施した。  
第4回はぐくむ委員会での継続審議となった。

(3) 次回開催日程等

- |                |           |          |
|----------------|-----------|----------|
| ・第1回提案書作成チーム活動 | 10月19日(月) | 13時30分から |
| ・第4回はぐくむ委員会    | 11月13日(金) | 13時30分から |
| ・第2回提案書作成チーム活動 | 12月14日(月) | 13時30分から |
| ・第5回はぐくむ委員会    | 1月15日(金)  | 13時30分から |

※ 令和3年3月に開催予定の第6回はぐくむ委員会の日程は今後調整を行う。

\*\*\*\*\*

## 4. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長

堀内秀雄

【會議錄署名欄】

委員 平冢利也

【会議録署名欄】

委員

戸島 浩子

---